跳人（ハネト）コスチューム

ハネト（祭の踊り手）はねぶた祭保存会が定める正式な衣装を身につけなければなりません。浴衣（夏季用の軽装の着物）が正装の基本となります。ハネトは浴衣の裾を膝までたくし上げて足を動かしやすくし、踊りの激しい動きに備えます。浴衣の腰回りは帯で留め、黄色い腰布を巻きます。浴衣の袖は長く、動きが定まりませんので、まくり上げて固定するために色鮮やかな布を肩にかけ、背中でリボンのように結びます。この装束を全体として見ると、色彩豊かな布で身体のあちこちを留め、運行の途中で邪魔な布地が飛び出してこないようにしてあります。

正式な衣装は実に精緻に作られており、その構成は、まずは浴衣、そして数々の装飾、履物、鈴、花笠（花のついた帽子）となります。履物は足袋（伝統的な靴下で、つま先が親指と残りの指を入れる部分とに分かれています）と草履（木製の、鼻緒の付いたサンダル）でなければなりません。ハネトは小さな鈴を衣装に結びます。そのため、ハネトが跳んだり踊ったりすると、一斉に鈴が鳴ります。衣装の総仕上げとなるのが花笠です。大変に手の込んだ、麦わらで作った三角形の帽子で、派手な色の花で飾り立てます。